

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と正規社員を区別せず、均等待遇、なにより差別！「ユニオンは労基法裁判に勝利するぞ！」

圧力に負けずたたかう

未来

郵政産業ユニオン
PIWU
全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 3936
19年3月5日(火)
Tel/Fax 095-828-1953

おはようございます。
3月に入りいよいよ年度末が近づいてきました。これから職場は慌ただしくなります。インフルエ
ンザは落ち着いたみたいですが、これからは花粉症の方にはつらい時期になります。仕事は大事ですが、体調優先で行きましょう。

人手不足と言われるようになって久しいが、期間雇用社員も集まらず、改善されるどころか、予
期せぬ退職などで来年度は益々人手不足に拍車がかかる見込みだ。局もハ
ローワークやホームページ、ネットのサイトなどで募集はしているが、人は集まらず人手不足解消には程遠い状態だ。

仕事のきつさも我慢できるが、最近は管理者による
圧力などで働きやすい
職場とは言い難い。

超勤抑制の圧力

超勤になった場合は課長代理以上に打刻を申し
出るのだが、その際に超勤の理由を細かく聞いてくるようにな
った。「混合区
を欠区にして
いる状況など
もあり、応援
状況の把握を
するため決
して超勤をす
るなど言う意
味ではない」と管理者は
言っているがこれは圧力
以外何物でもない。



聞いた話では「10
0%以下の物数なのに混
合区の応援もしなくて何
故超勤になったのか？」
と聞かれた社員もいた
らしい。

最近追跡系のゆうパ
ケットや定形外も多く、
ポストに入らない場合は
当然対面での配達になる。
特にマンションや団地の
配達では数字だけでは判
断できない部分を多々あ

それを数字だけを見
て判断してはいずれ
配達の遅い社員は自分の
休憩時間を削って配達す
るようになり、最終的に
は放棄隠匿などの最悪の
事態にもなりかねない。

仕事が早い人もいれば
遅い人もいる。差がある
のは管理者もわかっ
てははずだ。仕事
をさぼって
るわけではな
く、みんな一生
懸命頑張っ
ているのに、超勤
して「ごころ
さん」ではなく
「何故超勤に
なった？」こんな職場に
人が集まらないのは当然
かもしれない。

朝の体操でも圧力が
集配営業部の仕事は体
操から始まる。体操は体
をほぐし、頭も活性化す
るので、その日一日業務
をスムーズに行い、事故
防止のためにも必要であ
ると思うし、「よし！今日
も元気に頑張ろう」とい
う気持ちにもなる。
ところが、2月28日
の体操は様子が違った。

手足を伸ばして、声を
大きくだそう！と部長の
号令。ここまでは良かったが、その後、「ちゃんと
声を出さないと、何度
もやり直しさせ
るからな！」と大
声を出した！



この光景はテレビや映
画で見たような、刑務所
の体操のように感じた。
体操が終わったのは8時
15分になっていた。注
意された社員は喘息の持
病があり、薬も使用して
いた。彼が喘息なのは周
りの人は知っていた。

全体行動は皆全員がき
ちんとやらねばならな
いと思うが、障害を持
った人、持病を持った人、
風邪や花粉症などでノドを
痛めている人もいるだ
ろ

う。そういう人に対して
事情を考慮してもら
は無理なのだろうか？
本来なら今日も一日、
頑張ろうと体操して
いるのだが、怒鳴り
声で逆に皆、萎
縮してしまっ
た様に見える
のは私だけだ
ろうか！

郵政ユニ
オン長崎中郵支
部は、少しでも働きやす
い職場にしたいと機関紙
「未来」に職場のことを
時より掲載する。

局からは表現方法や事
実関係が少しでも違え
ば「事実と反する」として
申し入れという名の圧力
をかけられるときもある
が、機関紙への掲載は労
働組合として当然である
おかしなことはおかし
いと言わなければ職場は
どんどん悪くなるばかり
からだ。

組合的には圧倒的な少
数組合だが、たたかうこ
とで職場は守られると思
っている。
今後我々は圧力に負
けず、職場で訴え続け
いくつもりである。